

第9回 高等教育セミナー アンケートのまとめ

回収：8名分（回収率：35%）
（参加者23名）

質問1) いずれの部局からの参加ですか。

①部局長等	1名
②各部局等教員	2名
③教育工学関係教員	2名
④事務局及び各部局等事務職員	3名
⑤その他	0名

※ 以下において、①～④は記述回答者が上記のいずれかの区分によるかを示しています。

質問2) 今回のセミナーは、テクノロジーを活用した教育のあり方を考える上で役に立ちましたか。

役に立つ	5名（①0名、②2名、③0名、④3名）
どちらとも言えない	1名（①0名、②0名、③1名、④0名）
役に立たない	0名
無回答	2名（①1名、②0名、③1名、④0名）

質問3) 教育の現場で、テクノロジーを活用した授業を行っていますか。

行っている	2名（①0名、②1名、③1名、④0名）
行う予定がある	0名
行っていない	3名（①1名、②1名、③0名、④1名）
無回答	3名（①0名、②0名、③1名、④2名）

質問4) 質問3で「行っている」と回答された方に・・・具体的にどのような活用を行っていますか。

②WebCTによるe-learning / ③WebCTによるシラバスの提供・PC演習・FD、DVDを用いた医療スキル・指導スキルのon demand教育、小グループ検討を中心としたプログラム。

質問5) 教育改善を行ううえで、テクノロジーをどのように活用したらよいと思いますか。

- ①人と金によるサポートの課題の解決。PBLで実践することで活用
- ②IT活用の前に「教育に時間を割く」ことに対する適切な評価がないと「知の継承」は無理でしょう / 学生と教員の対話的利用が考えられる、教育の立場からすれば自分の伝え方が不十分だった点を把握できるし、学生の立場からすればより深く理解することもできるだろうし（当人でない）学生にも示唆を与えるものになると思う
- ③事例と効果を公開し、行った者をプラスに評価すること

質問6) 九州大学の中で、テクノロジーを活用した授業を実践する場合、どのようなことが課題だと思われるか。

- ①教育開発推進センターに所謂“教育工学”に精通したその人材（各部門での実践にアドバイスできる人材）を置き、小型（小規模）のものから先ず実践するとよい。
- ②現状ではテクノロジーの活用による功(罪)が十分に認識されていないため、教員側の意識の変革も求められるような気がする。学生をどのように参加させるのか、参加意欲をどうかき立てるのかを考える必要がある。実は学生もテクノロジーを活用した授業を受けてきたわけでもないのに、意識を変えることが求められているのかもしれない。よりよくするためのフィードバック体制の構築

③(1)環境の整備、その基盤として学生と教員に関する事務・教務情報の一元的な管理、それを行うための事務・技術組織の強化(2)教育支援を担当する部局と、支援業務を担当する専門家(3)環境開日のための IT 投資の集中化、部局よりの分散投資の引き上げ(4) 学内での教育実践の共有 / (質問 5 に関連して⇒) 一所懸命やっている教員に全く何の支援もないこと！だんだん疲れてきました。テクノロジー（とくに Web）はまだ使い勝手が悪すぎるので、先に走るのは危険、もう少し足元を固めたい